（第３種郵便物認可）　2026年02月19日

埼玉新聞　経済欄

中小企業診断士による
経営Q&A

バラバラなアイデアの整理術

Q 社内で課題解決や商品開発の会議を行っても、アイデアは出るものの、なかなか結論が出ません。納得感のある結論をまとめる良い方法はありますか。

A 多くの企業で「会議が長いだけで何も決まらない」という悩みは尽きません。口頭だけの議論では、提案だけにとどまり、バラバラなアイデアを整理しきれないことが原因です。

そこでご紹介したいのが、新QC七つ道具の一つとしても知られる「親和図法」です。親和図法とは、各個人が提案したアイデアをグループ化し、構造化する手法です。単なるアイデア出しにとどまらず、納得感のある結論を導くことができる非常に有用な手法であり、品質管理以外でも事業戦略立案などに活用できます。早速、その手法についてご紹介します。

まず、ステップ1として、課題解決や商品開発など今回の議論のテーマを決め、参加者は自分の意見やアイデアをカード（あるいは付箋）に書き出します。ポイントは「1枚につき一つのアイデア」を簡潔に書くことです。この段階では質より量を重視し、お互いのアイデアを批判せずに自由に出し切ることが重要です。

次に、ステップ2として、書き出されたカードを机やホワイトボードに広げ、全員で提案されたアイデアを眺めます。そして、「なんとなく似ている」「親和性がある」と感じるカード同士を近くに集めてグループを作ります。

そして、ステップ3として、まとめたグループごとに、その内容を要約した「タイトル」を作成し、アイデア群を俯瞰（ふかん）して確認することで、参加者全員が「議論の全体像はこうなっていたのか」と腹落ちし、結論を出す段階へ進むことができます。

さらに、プラスαとして、グループ間の関係（因果関係、対立関係など）を矢印で結び、全体の構造を図解します。続いて、完成した図を言語化することで、より精度高く共通理解を深めることができます。ちなみに、言語化する場合、完成図の解説を皆の前で行うことをイメージし、どうすれば全員に理解してもらえるか、を考慮すると効果的です。

この親和図法のメリットは、意思決定だけでなく、「各個人の意見やアイデアを反映させた結論を導き出す」というプロセスへの納得感が生まれることです。この納得感は、その後の実行段階における社員の主体性やモチベーションにも大きく関わります。

中小企業診断士は、「現場の意見がまとまらない」「複雑な課題を整理したい」というお悩みのご相談にも乗れますので、そのようなお困り事がある場合は、ぜひ埼玉県中小企業診断協会にご連絡ください。（中小企業診断士・翁長朝典）

連絡先：一般社団法人埼玉県中小企業診断協会（☎048・762・3350）